

地方銀行の動きが慌ただしくなってきました！

日銀のマイナス金利政策を背景とした超低金利や人口減少による顧客の減少で、地方銀行の経営が厳しくなっていることは以前から言われていましたが、ここ最近になって動きが活発になってきましたので、ご紹介させていただきます。

【横浜銀行と千葉銀行が業務提携へ】

これまで犬猿の仲と言われてきた地方銀行最大手の横浜銀行(神奈川県)と3位の千葉銀行(千葉県)が7月10日に、業務提携することで基本合意しました。

提携の名称は「千葉・横浜パートナーシップ」。

今後は協調融資や事業承継・M&A支援、重複がない海外支店の相互活用などで法人営業の高度化を目指すそうですが、横浜銀行とコンコルディア・フィナンシャルグループ傘下の東日本銀行は「ビジネスモデルの違い」(浜銀・大矢頭取)から参加しないとのこと。

一方で、武蔵野銀行と包括提携している千葉銀の佐久間頭取は「将来的に(武蔵野銀行を含む)3行で協働することも検討したい」と述べているそうです。

東日本銀行は、預金量は1.7兆円と信用金庫並みですが、東京都の第二地方銀行でありますので、横浜銀行も東京進出の足掛かりとして手を組んだのでしょうが、昨年起こした不祥事があまりにもお粗末だったことから、今回の連携からは距離を置かれたのでしょう。今後、どうなっていくのか心配ではあります。

神奈川・千葉・埼玉の大連合により、東京という恵まれた市場を狙ってくるのでしょし、横浜銀行と千葉銀行の協調融資により与信が2倍になるなどの期待ももめますので、東京の企業にとっては楽しみなニュースです。ただし、年商10億円以上の企業がターゲットとなると思われます。

【ふくおかFGが「みんなの銀行」開業へ】

ふくおかフィナンシャルグループは8月7日、2020年度中にもモバイル専門銀行「みんなの銀行」の開業を目指すことを発表しました。

地方銀行がネット専門銀行の設立を発表するのは初めてです。

みんなの銀行は店舗を持たないネット専門銀行となり

ますので、ふくおかフィナンシャルグループのように九州地域に限定せず、全国規模のユーザー獲得を目指しています。

これまでの銀行は、店舗の壁がありましたので、その壁を取っ払う全く新しい発想の取組です。

「過去の常識に固執しない」、これがこれからの地方銀行の考え方の主流になるはずで、自分たちの都合ばかりを優先する発想から、本当の意味で顧客目線に立てるようになるのかどうか、期待です。

【島根銀行、SBIグループから25億円の出資へ】

銀行でありながら預金量が4,000億円弱しかなく、業績が悪いのに本店ビルを新築したりと何かとお騒がせしていた島根県の第二地方銀行である島根銀行に対し、SBIホールディングスは25億円を出資することになり、グループ全体での出資比率は34%となります。

従来は、経営が悪化すると、近隣の銀行との合併・経営統合、あるいは国の資本支援を求めるケースがほとんどでしたので、このようなかたちも新しい道です。

9月3日にSBIホールディングスの北尾社長が「国内外のさまざまなフィンテックを活用し、地域金融機関と『第4のメガバンク』構想の実現を目指す」と都内の講演で発言した直後に島根銀行への資本・業務提携のニュースでしたので、今後の動きに注目です。

【福井銀行と福邦銀行が包括提携へ】

9月13日、福井県の第一地方銀行である福井銀行(預金量2.3兆円)と第二地方銀行である福邦銀行(預金量4,000億円)が、包括連携の検討を開始すると発表しました。

同じ県内でライバル同士だった両行が手を結び、営業地域が重複する店舗の共同化を進めるとのことですが、このようなことも過去に例がありません。

両行から資金調達をしていた企業は、資金調達の窓口が実質一本化されることとなりますので影響大です。

横並び意識が強いと言われてきた地銀業界において、前例のない動きがこれほど続いていることは、それほどもまでに地銀が追い込まれていることを意味し、地銀への依存度が高い企業にとっては目が離せません。